

2022 年 1 月 4 日

## 通貨ニュース

# 東南アジア：オミクロン株の感染拡大状況 と今後のリスクの芽について

オミクロン株の感染拡大が世界中で急加速している。米国では断続的に 1 日当たりの新規感染者数が最大を記録しているほか、フランスやイタリアなどの大陸欧州でも同様の動きが見られる。ここでは東南アジア(主に ASEAN-5)地域における新型コロナウイルス及びオミクロン株の感染拡大状況を確認するとともに、今後にかけてのリスクの芽について整理していきたい。

東南アジアの多くの国において、昨年後半以降、新規感染者の抑制傾向が確認されていたが(図表 1~5)、ASEAN-5 の全ての国でオミクロン株の市中感染が既に確認されている。市中感染にかかる報道は多くないが、タイでは確認から短期間で千人近くまで増加したとされ、オミクロン株の感染力を考慮すれば今後各国で感染者数は増えていくと考えることが自然であろう。

昨年の春から夏にかけて東南アジア地域で急拡大したデルタ株について振り返ると、ワクチン接種の進捗が先進国と比較して遅れていたこともあり、感染拡大の深刻化とともに各国は厳格なロックダウン措置を敷かざるを得ず、この結果その間の成長率は大きく下押しされ、年間の見通しも下方修正された。その後はワクチン接種が進むにしたがって、経済活動は活性化しつつあるが依然としてコロナ前の水準にまで戻った国はない。

こうした中で、オミクロン株の感染拡大懸念が各国の経済回復に水を差すような状況となっている。先述の通り米国では年末年始にかけて新規感染者数は最高を更新しているが、オミクロン株はワクチンの追加接種を実施すれば重症化のリスクが低いとされており、今後爆発的な拡大が続き医療崩壊に近い状態に陥る場合を除き、経済成長を維持できるような防疫指針を継続する見込みが強い。東南アジア地域においても一部の国では 2 度以上の接種を完了した割合が先進国やそれに近い水準に近づいており(図表 6)、経済成長を考慮した対策を講じられるかが今冬のテーマとなる可能性はある。現にシンガポールやマレーシアでは既に 3 回目の接種が進められ、接種状況に応じて商業施設や飲食店などの運営方針を区分する様な動きも見られている。

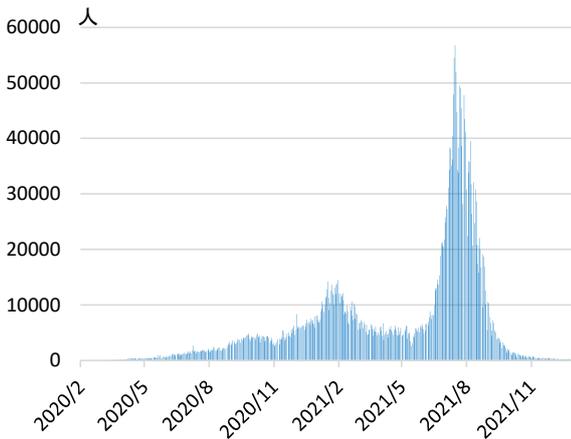
今年の東南アジア経済に関しては、22 年後半からの本格回復を見込む声強い。こういった動きに合わせて各国の中央銀行は金融政策の正常化に着手することも視野に入ることとなるだろうが、オミクロン株の拡大によって前段の景気回復に関するシナリオが昨年同様に崩されることになれば、金融政策の正常化も持ち越しとなることも考えられる。その一方で、米国など先進国の多くは 22 年での金融政策の正常化に着手するとみられる。その過程で東南アジアを含む新興国からの投資資金の流出や(新興国)通貨安に悩まされることも考えられ、場合によっては回復の伴わない金融政策の正常化を強いられる国も出てくるといった可能性も否めない。こうなってしまうと、その傷口の補修はより一層時間を要することとなるだろう。

市場営業部  
マーケット・エコノミスト  
堀 堯大  
03-3242-7065  
takahiro.hori@mizuho-bk.co.jp

この他、東南アジア地域との関連性が強い要素としては、観光業への影響である。東南アジア地域はコロナ禍以前において、年々増加していた中国人観光客にとっての主要な旅行先であり、観光業はタイやベトナムをはじめ多くの国にとって貴重な外貨の獲得方法の1つであり、各国経済を支える産業であった。しかしパンデミックの長期化によって約2年間実質的に機能しない状況が続いており、こうしたことも域内経済の回復が遅れる要因となっている。

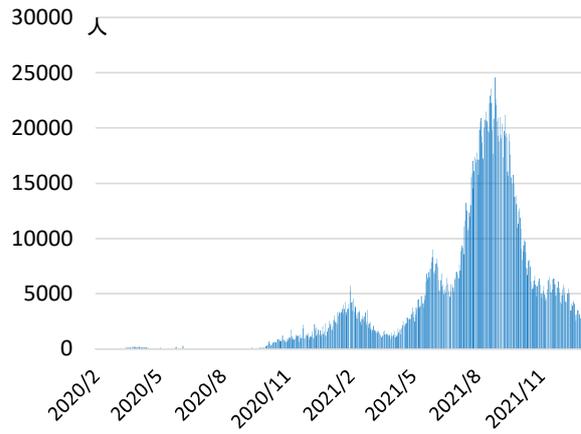
今回のオミクロン株の発見以降、一時的に緩和されていた各国の観光客の受入対応も軒並み見直されており、タイでは国外からの旅行者を対象とした入国時の隔離の免除が停止することが報道された。足許の世界での感染拡大動向を踏まえれば、水際対応が厳格化することはあっても緩和されることはないように見受けられる。また、オミクロン株の感染拡大ピークアウト後も各国の出入国に関する規制の足並みが揃うには時間を要することが想定され、現状では今年中の東南アジア地域での観光業本格再開は難しい印象がある。こうした点からも域内の景気回復を楽観視できる段階には遠いと言えそうだ。

図表 1: 新規感染者数の推移(インドネシア)



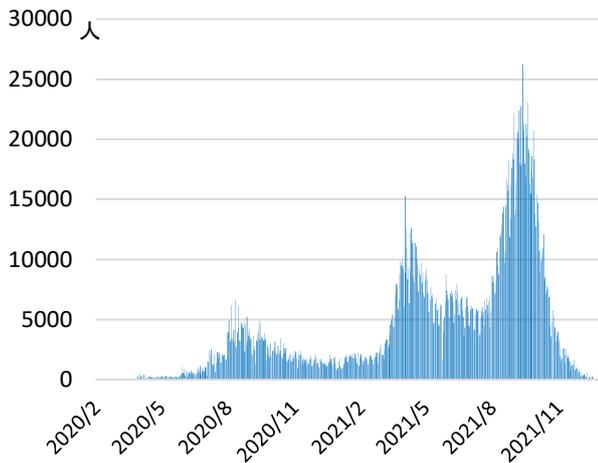
出所: Macrobond、Our World in Data、みずほ銀行

図表 2: 新規感染者数の推移(マレーシア)



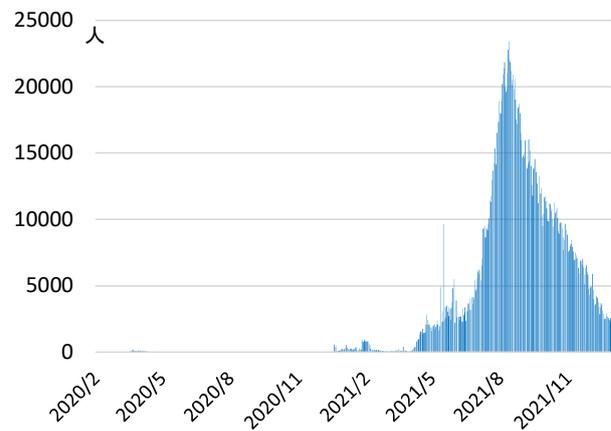
出所: Macrobond、Our World in Data、みずほ銀行

図表 3: 新規感染者数の推移(フィリピン)



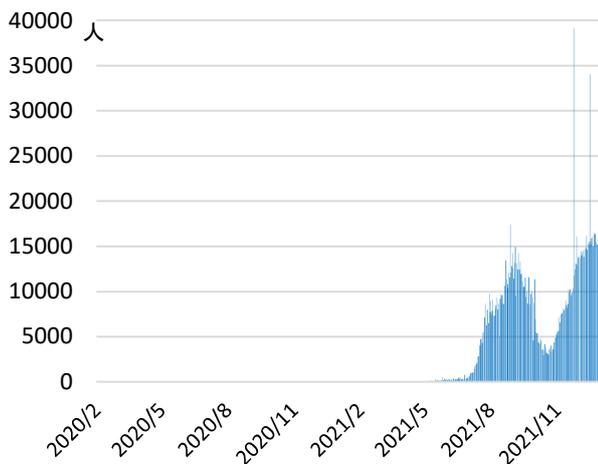
出所: Macrobond、Our World in Data、みずほ銀行

図表 4: 新規感染者数の推移(タイ)



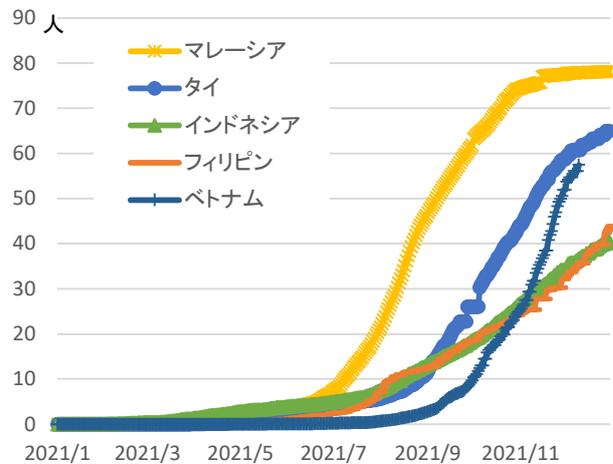
出所: Macrobond、Our World in Data、みずほ銀行

図表 5: 新規感染者数の推移(ベトナム)



出所: Macrobond、Our World in Data、みずほ銀行

図表 6: 100人当たりのワクチン接種完了人数



出所: Macrobond、Our World in Data、みずほ銀行

※2回以上の接種を対象、ベトナムは12月8日まで

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、确实性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。